

「大丈夫な社会」って 何ですか？

笠井清登

日本統合失調症学会 事務局長
東京大学医学部附属病院 精神神経科



大丈夫な社会

「大丈夫な社会」というのは、
「丈夫^{じょうぶ}じゃなくてもダイジョ
ウブな社会」という意味です。

私は、日本統合失調症学会
という学術団体（福田正人理事
長[▽]特集5の執筆者）を運営して
います。

約10年前、学会の監修で精
神科専門医向けに統合失調症
の教科書を作りました。

当時の医学書としては画期
的なこととして、精神疾患を
自分自身や家族として経験し
たという意味での「専門家」
である当事者や家族に原稿を
寄せていただきました。

○刻まれた言葉……

その中で、現・全国精神保
健福祉会連合会（みんなねっ

そうか！



と）理事長の岡田久実子さん
が書かれた「統合失調症に
なっても大丈夫な社会」とい
う言葉が私の心に深く刻まれ
ました。

○予防より先に……

その後私は、高校の保健体
育の教科書で精神疾患につい
て執筆しました。

このとき「予防」をどう伝
えるかを考えました。

医学とは、病気において予

防をめざすことはあたりまえ
であり、病気の原因や病気に
かかりやすくなる環境因子を
突き止め、それを取り除くこ
とです。

しかし精神疾患に、こうし
た予防概念を単純に当てはめ
てよいでしょうか？

精神疾患を経験している人
は「ならないほうがよかった
ものになってしまった後の
人」なのでしょいか？

経験の専門家の声を聴き、
その方々の人生に畏敬^{いけい}の念が
湧^わけば湧くほど、「予防」と
いうことを単純に考えていた
自分を反省するようになりま
した。

「大丈夫な社会を創^{つく}るほうが
先ではないだろうか？」

経験の専門家と支援の専門
職の共同創造（コ・プロダクシヨ

シにより、大丈夫な社会を創ろうとする過程自体が、ひいては心の健康社会、心の不調に備える社会、すなわち予防ということにつながるのではないかと考えました。

2つの大丈夫な社会

「大丈夫な社会」という言葉には、「①社会の中の個人にとって大丈夫な社会」と、「②その社会自身にとって大丈夫な社会」という2つの意味がこめられていると思います。

前者①は「障害などがあっても大丈夫な社会」というふつの意味ですが、後者②は「そうした社会は、社会のありかたとして大丈夫な社会である」という意味です。

つまり、①は個人から出発

する視点、②は社会から出発する視点という意味です。

後者②は少しわかりにくいですが、「大丈夫な社会が、大丈夫ではなくなる状態に簡単にはおちいらない」ということです。

○大丈夫な社会の支え……

大丈夫でなくならないように支えるのは、障害のあるなしにかかわらず、誰をも排除することのない社会をめざす一人ひとりの心がけであつたり、それらの心の集合としての文化や風土だったり、あるいは人権を守る制度だったりします。

取り組んでみた「大丈夫な社会」創り

大丈夫な社会を創るには、

政治家になるか、たくさんのお署名を集める運動などをしてしないと実現しないのでしょうか？

そうではありません。私が私の立場でできること、その第一歩を踏み出し（小さな実験を始めて）、コツコツ積み重ねることが大事だと気づかされました。

○経験専門家が医療人に……

そして、今までは医療の支援対象であつた疾患や障害による苦勞の経験がある人（経験専門家）が、医療人として主体的に活躍できる社会、医療人をめざせる社会があれば、その社会はすべての人にとっても大丈夫な社会ではないか、と考えるようになりました。

○私が踏み出したこと

そこで、東京大学の同僚の熊谷晋一郎さんと共同で、ピアサポートワーカーに自分の勤めている病院の仲間に加わっていただいたり、ピアスタッフを養成する講座を運営したりしています。

また、障害があっても医師をめざせるためのセンターを作ったり、将来医師や看護師になる学生に、大丈夫な社会の担い手になる素養を身につけるための教育を行ったりしています。



ともに活躍できる社会へ